

シモキサニル・マンゼブ水和剤 カーゼート PZ 水和剤	取扱メーカー： クミカ、三井アグロ、ホクサン 原体メーカー： デュポン、セレクサアグリ
成分： シモキサニル〔シアノアセトアミド系 PRTR・1種〕…12.0% マンゼブ〔有機硫黄 PRTR・1種〕……………65.0% その他 PRTR 該当成分： ヘキサメチレンテトラミン〔PRTR・1種〕……………1.6%	性状： 淡黄色水和性粉末45μm以下 毒性： 普通物 消防法： ——

【品目特性】……………

- べと病、疫病に対し予防と治療の両方の効果を示す。
- マンゼブが植物体を外から保護し、病原菌の植物体内への侵入を阻止する（予防効果）。
- 一方、植物体に吸収されたシモキサニルは、植物体を内から保護し植物体内へ侵入した菌糸の生育及び胞子形成を阻害する（治療効果）。また、植物体へすばやく吸収されるため、降雨による影響が少なく安定した効果を示す。
- シモキサニルはフェニルアミド系耐性菌に対しても感受性菌と同様の安定した効果を示す。ヨーロッパでは20年以上も混合剤として使用されているが、耐性菌発現の事例はない。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

- 病害の発生初期までに使用するとより効果的である（病徴発現後の散布では十分な効果は期待できない）。

【薬効・薬害等の注意】……………

- 石灰硫黄合剤、ボルドー液との混用はさける。
- ボルドー液との7日以内の近接散布は薬害を生じるおそれがあるのでさける。
- 散布量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせて調節する。
- 散布液調製後はできるだけ速やかに散布する。
- 適用作物（きゅうり、すいか、メロン、トマト、はくさい）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

【安全対策上の注意】……………

- 夏期高温時の使用をさける。
- 薬液タンクの洗浄廃液は放置せず、速やかに安全な場所に処理する。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。
- 散布器具・容器の洗浄水及び空容器は適切に処理する。



【適用と使用法】

作物名	適用 病害名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用 方法	ジモキサニルを含む 農薬の総使用回数	マンゼブを含む農 薬の総使用回数
ばれいしょ	疫病	600～ 800 倍	100～ 300 ℓ	7 日前まで	4 回以内	散布	4 回以内	10 回以内 (無人ヘリ散布 は 3 回以内)
ト マ ト		べと病	150～ 300 ℓ	前日まで	2 回以内		2 回以内	
きゅうり	7 日前まで			3 回以内	3 回以内			
す い か		褐色腐敗病			1000 倍		7 回以内	
メ ロ ン	つる枯病	1000～ 1500 倍		100～ 400 ℓ			30 日前まで	1 回
は く さ い	べと病		1 回					
たまねぎ	べと病 白色疫病	1000 倍	100～ 300 ℓ	3 日前まで	3 回以内		5 回以内	
らっきょう	白色疫病	600～ 800 倍	100～ 200 ℓ	30 日前まで			3 回以内	3 回以内
だ い ず	べと病	1000 倍	100～ 300 ℓ	45 日前まで				
ぶ ど う		1000～ 1500 倍	200～ 700 ℓ					